

多剤耐性結核に対する新規治療用 DNA ワクチンの開発・実用化に関する研究

研究分担者 熊ノ郷 淳 大阪大学 教授

研究要旨

本研究は、新規ワクチン（HVJ-エンベロープ/HSP65 DNA+ IL-12 DNA）の第1相を実施し、本ワクチンの薬事法に基づく承認取得を目指しているが、本分担研究では、近畿地区の結核診療施設の結核患者の臨床試験統括。結核ワクチンの薬効解析基盤の確立を行った。

A. 研究目的

新規ワクチン（HVJ-エンベロープ/HSP6DNA+ IL-12 DNA）の有効性。安全性を確認するため、多剤耐性結核に対する医師主導治験（第1相）を実施し、本ワクチンの薬事法に基づく承認取得を目的としている。

neuropilins and plexins as receptors for semaphorin. Nature Review Immunology. Nature Reviews Immunology 13:802. 2013.

B. 研究方法と C. 研究結果

本分担研究では、近畿地区の結核診療施設の結核患者の臨床試験統括。結核ワクチンの薬効解析基盤の確立に着手した。マウスを用いた細胞性免疫、液性免疫双方の測定基盤の立ち上げ。関連施設連携を行った。

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

D. 考察

E. 結論

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kumanogoh A and Kikutani H.: Immunological functions of the